

派遣先所属 宮城県教育庁文化財保護課
氏 名 西口 正純 (にしぐち まさずみ)
派遣期間 平成26年4月1日～平成27年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

先の大震災では、宮城県の沿岸部は津波で甚大な被害を受けました。それから3年半がたちましたが被災地域の復興は途に就いたばかりで、被災した方々は仮設住宅の暮らしが長期化し田畑は荒れた状態が続いています。

今年度私は派遣先の宮城県文化財保護課で、被災した集落の高台移転や耕作地復旧のためにやむを得ず失われる埋蔵文化財の発掘調査を迅速に行っています。

4月に着任してまず行った調査は、震災からの復興に欠かせない道路の整備を行う三陸沿岸道路建設工事に伴うものでした。ここでは国指定史跡多賀城の南西に整備された奈良時代から平安時代の計画都市に東西碁盤の目状に整備された道路や多賀城に赴任した役人の館跡、庶民が住む竪穴住居跡などが見つかっています。



山王遺跡作業風景

そのほか、遺跡として周知されている箇所については、その範囲を明確にするために試掘調査を行い発掘調査が必要な場所の絞り込みや、掘削により遺構が壊されない場合は保存の処置を講じます。

また、本調査が必要となった南三陸町の新井田館遺跡は、15世紀から16世紀にかけての地元有力者によって築かれた山城で、山頂の平場には大規模な建物があったことがわかりました。さらに堀や土塁で堅固な防備をしていた様子も発掘調査で明らかにされました。

ともすれば埋蔵文化財の調査が、復興事業の妨げになるのではないかとする見方がありますが、極力事業の進行に影響が出ないよう事業者と話し合いを重ね、作業も工夫し地域の住民の方の理解とご協力をいただきながら実施していますので、埋蔵文化財の調査で復興事業が滞るといった事態は起きていません。

今年度、復興支援のために宮城県教育委員会に埋蔵文化財の調査に当たる職員は、



試掘調査風景

北は山形県から南は宮崎県と多くの自治体から18名が派遣されています。各県ともに発掘調査の手法には多少の違いがありますが、お互い良い点を取り入れながら発掘調査の効率化・スピードアップに努めています。

2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

これまで私は、多賀城市と南三陸町で調査を行ってきました。いずれの場所でも作業に来られる方のほとんどが被災体験をお持ちです。その方々と厳しい現場作業を行ってきましたが、皆さん当時の事を振り返り返る時も気丈に明るく振舞われます。こちらからあえて聞くわけではありませんが、当時の惨状とご苦労はひしひしと伝わり時に胸を締め付けられる思いがあります。



新井田館調査風景

あの日から3年半が経過し南三陸町でもたくさんの工事車両が行き来し旧市街地の嵩上げ工事などは進んでいるように見えます。一方では、あの時の記憶が風化するのではないかと心配する声もあります。